

THANKS

(VOL. 193)

BUSINESS NEWS LETTER

発行日：平成25年7月1日
発行者：有限会社サクスマインドコンサルティング
連絡先：〒359-0043
埼玉県所沢市弥生町1792-10
TEL:04-2907-1715
E-MAIL：info@thanksmind.co.jp
<http://www.thanksmind.co.jp>

特集

「四字熟語から学ぶ仕事における心構え⑧」

今、本誌では「四字熟語」を参考にしながら、私がコンサルティングを通して「こんなことが大事では・・・」と思うことを紹介しています。

題して、「四字熟語から学ぶ仕事における心構え」。

カルタ風に「あ」からスタートし、今回は、「に」で始まる熟語からです。

に：「日進月歩（にっしんげつぽ）」

<意味>

日々に進み、月々に歩む。つまり、絶え間なく進歩し、発展すること。
また、急速な勢いで発展しつつあること。

<使い方>

パソコンの性能は日進月歩で速度が速く、大容量になっている。

インターネットが世の中で注目を浴び始めたのは1994年。
私は、その年に開かれた中小企業診断士の勉強会で、インターネットのデモを見ました。
1枚の画像がダウンロードされるまで、待つこと1分。
画像が画面に映し出されると、周囲から「すごい！」という歓声が湧き上がりました。
今から20年前のこと。
それが今や、インターネットを通して、リアルタイムでコンサートも見ることが出来る時代。
まさに「日進月歩」の時代です。

ツイッター、フェイスブック、ライン・・・
「私はとてもついて行けない…」
私と同世代の人たちと話をしていると、そんな話によくあります。
正直言って、私自身、そう感じる時があります。

例えばスマートフォン。
とりあえず、私も持ってはいますが、その活用度は???
メールを出したり、乗換案内を調べたり・・・
携帯電話と、それほど変わりません。

「世の中の動きに敏感でないとダメ。新しいことにも、どんどん取り組んで行きましょう！」
なんて、お客様に話をしながらも、自分自身は旧態依然。
「こういう姿勢は良くないな・・・」
最近、そう思っています。

道具によって、仕事の生産性は大きく変わります。
「弘法筆を選ばず」とは言いますが、それは、弘法大師だから言えること。
凡人にとっては、書きやすい筆を使った方が、上手な字を書くことができます。
また、ゴルファーだって、プロほど新しい道具にこだわります。
「自分は何を使ってもOK」なんて絶対に言いません。
少しでも良い結果を出すことに「貪欲」なのです。

「私はとてもついて行けない」という人の本音は、「面倒なのでついて行きたくない」ということでしょう。
プロとして生きる以上は、道具に対して、やはり貪欲にならないと…

ある会社で、営業担当者のお客様の訪問件数が少ないということが問題になりました。
社用車での移動がほとんどですが、特に、新しくその地域に配属された人の件数が伸びません。
その理由は簡単。
土地勘が無く、道が分からないから。
迷ってしまったたり、渋滞にハマってしまったたり・・・
昔であれば、「道をおぼえるまでは仕方がない」ということで見過ごされるような話ですが、今は「カーナビ」という便利な物がある時代。
担当のお客様を登録してナビに従って動けば、土地勘が無い人でも効率的に訪問できます。
10万円くらいかかりますが、無駄な時間と比べれば高い投資ではありません。

限られた時間の中で、いかに仕事の密度を濃くできるか…
日進月歩で進化する道具に貪欲になることが大切でしょう。

ぬ：「盗人上戸（ぬすびとじょうご）」

<意味>

甘い物、お酒のどちらもいける「両刀使い」のこと。
いくら酒を飲んでもケロリとしていて顔に出ない人のことも指す。

<使い方>

彼は見かけによらず、盗人上戸だ。

ここ数年、私の体重は高止まりです。
運動しても、なかなか落とすことができません。
その理由のひとつが酒。
私は学生時代からお酒は大好きで、今も外出先でお客様や仕事仲間と飲みに行くことが多いです。
また、家で食事をする時も、ビールや焼酎を飲みます。
たぶん、1年間で360日くらいはアルコールを摂取しているでしょう。
昼食など、食事だけをする時はメニューのカロリーを意識したり、ごはんの量を減らしたりしているのですが、アルコールが入るとダメ。
アルコールの食欲増進作用と、思考停止作用により、ついつい箸が動いてしまいます。

拳句の果てには、「締めラーメン」。
もう最悪。
翌朝、胃もたれしながら後悔します。

それから、もうひとつの理由が菓子。
幼い頃から甘い物が大好きで、和菓子、洋菓子なんでもござれです。
酒と菓子。
対極にあるように思えますが、実に相性がいいですね。
ポッキーを食べながらのハイボール。
絶妙です。

昔は、「男が菓子を買うなんて格好悪い！」なんて硬派ぶっていたので、菓子を食べるのは、ほとんど自宅か飲み屋でした。
しかし、時代は変わりました。
今は、コンビニで男性が菓子を買うのは普通です。
私も然り。
出張中に、夕食をコンビニ弁当で済ます場合は、酒と菓子がセットになります。
弁当は500キロカロリーで抑えても、350mlの酒とポッキーのような菓子を買えば、軽く1,000キロカロリーをオーバーします。
これでは、痩身なんてできる訳ありません。
「分かっちゃいるけど、やめられない～～」
まさに、そんな状況です。

ね：「年功序列（ねんこうじょれつ）」

<意味>

技能や業績よりも年齢や年次にしたがって地位や待遇を決めること。
職場での昇進制度をいうことが多い。
「年功」は長年勤めた功勞、長年の熟練。 「序列」は順序。

<使い方>

当社は、今でも年功序列の人事制度を基本としている。

「年功序列」は、かつて「終身雇用」「企業内組合」とともに、日本的経営の「三種の神器」と言われてきました。

しかし、バブル崩壊後「年功序列」型の人事制度は、急速に衰退しました。
私のまわりの会社でも、この10年の間で、8割以上の会社が人事制度を変えました。
内容はどの会社も、「年功序列」から「実力主義／成果主義」への転換です。

この背景は、厳しい経営環境です。
右肩上がりで売上が伸びる時代が終わり、弱肉強食の「淘汰」の時代がやってきました。
その中でいかに生き残るか？
「実力があって、結果を出した人が評価される」
年齢や経験に関係なく、「実力」をモノサシとすることで、社員を動機づけ、会社としての力を高めようとしています。

私としては、この転換は必然だと思っています。
若くて経験が浅い人でも、十分な力を持っている人が多くいますから。

しかし、いろいろな会社を見てきて、気になることがあります。
それは、「実力主義」の名のもとに、年配の方が虐げられてしまう傾向があること。
若い人ばかりが重用されて、年配の方が「終わった人」として閑職にまわされるようなことが、よくあります。

今の時代、確かに「年功」に従って「序列」をつくることは適しているとは思いません。
しかし、長年勤めた功労や、長年の熟練という「年功」自体は、決して否定されるものではないでしょう。

実力がある若い人が、バリバリ働くことは、組織の活性化につながります。
その一方で、経験豊富な年配の方のモチベーションを維持し、力を発揮してもらうことも、組織としては極めて重要なことです。

上述の通り、私のまわりの会社でも8割以上の会社が人事制度を変えました。
その結果はどうだったのか？
私は以下のように見えています。

- 変えたことによって、狙い通りになった会社。
→組織が活性化し、組織としての力が高まった会社が、全体の3分の1。
- 変えたけれども、まだまだ狙い通りにいけない会社。
→制度は変わったけれども、会社としての「中身」は、ほとんど元のままの会社が、全体の3分の1。
- 変えたことによって、以前よりも悪くなってしまった会社。
→本来の会社が持っている良さ（例えばチームワークなど）が消えてしまった会社が、全体の3分の1。
ちなみに、せっかく作った制度をあっという間に、元に戻してしまった会社も数社あります。

「年功序列」から「年功配慮」「年功尊敬」。
年配者が持っている強みや知識にも目を向け、それが発揮できるように配慮すること。
そして、役職を外れた人であっても、周囲の人が尊敬の念を持って接すること。
そんな会社が成功しています。

<次回に続く>